



「ストップ・ザ・無縁社会」

地域での支え合い

<http://stop-muen.jp>

「支え合い社会」県民フォーラム開催報告

“居場所、交流、支え合い”をキーワードに、
「地域での支え合い」の大切さを共有しました!!

8月28日、神戸芸術センター芸術劇場で、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会総会と「支え合い社会」県民フォーラムを開催。県内外から社協・行政・施設関係者、民生委員・児童委員、ボランティア、研究者、学生ら650名が参加しました。

開会に当たり、キャンペーン推進協議会代表幹事の吉本知之県社協会長は、本年度からの新テーマ「地域での支え合いをすすめよう!」を紹介し、「多様な分野の関係者や県民の皆さまと一緒に協働しながら、『支え合い社会』を実現していきましょう」と参加者に呼び掛けました。

その後、新しい啓発パンフレットに基づいて取り組みを説明し、平成29年度事業報告・決算と平成30年度事業計画・予算が承認されました。



記念講演

「家族との関わり～母として・娘として～」

ジャズシンガーの綾戸智恵氏をお招きした記念講演では、母親の介護体験、息子の子育て体験を交えながら、家族・血縁は人それぞれの形があり、関係性や支え合う姿の多様さを確認しました。さらに、「人との付き合いの中に人生がある」として、誰かと共に時間を過ごすことの大切さや自立の考え方について語られました。

参加者からは、「ご自分の体験を基にユーモアを交えてお話して下さった中に、介護のヒントがたくさん入っていて参考になりました」「いちばん小さい社会である家族を大切にしながら、人とのつながりが広がっていくことを学びました」といった声が寄せられました。



パネルディスカッション 「交流と支え合いの輪を広げよう」

コーディネーター 松原 一郎氏(関西大学社会学部教授)

パネリスト

入江 一恵氏 (NPOひまわり会理事)

丸野 登志子氏(NPO法人灘水仙の里代表)

上野 武利氏 (西宮市社会福祉協議会事務局長
兼 共生のまちづくり課長)



パネルディスカッションでは、地域の居場所づくりを通じて交流を生み出し、支え合い活動を展開する住民主体の地域福祉実践から、社会的孤立の防止や身近な地域のつながり・支え合いのヒントを探りました。

神戸市と明石市にまたがる明舞団地の再生とコミュニティの活性化に取り組む入江氏の報告、人口減少と過疎化が進む南あわじ市灘地区で活動する丸野氏の報告から、住民一人一人の尊厳を大切にする居場所づくりと、「支える、支えられる」双方向の支え合いの在り方についてポイントを確認しました。

上野氏の報告からは、個人宅や空き家を活用しながら多様な居場所づくりを進めている事例が報告され、交流拠点のゆるやかなネットワークから地域内での協議・協働を経てまちづくりにつなげていくことの重要性を学びました。

このような報告を交えて、松原氏は「住民一人一人がかけがえのない存在です。お互いに慈しみ合うことで、自分たちに共通する問題として主体的に取り組む気持ちになります。これは住民自治、市民自治の原点と言えるかもしれません」と、実践のポイントを解説し、これからの「地域での支え合い」に期待を寄せました。